

庁議の概要

開催日 平成 20 年 6 月 9 日 (月)

◎項 目

- 1 各部署等の動向について【各部署】
- 2 平成 20 年度高知県庁職員生活習慣病予防率先行動計画について【健康福祉部】
- 3 平成 19 年人口動態統計月報年計・高知県の概数について【健康福祉部】

◎内 容

- 1 各部署等の動向について【各部署】

各部署より今週の動きについて概要説明を行った。(特に質問・意見なし。)

- 2 平成 20 年度高知県庁職員生活習慣病予防率先行動計画について【健康福祉部】

配布資料により健康福祉部及び総務部職員厚生課産業医から概要説明があり、意見交換を行った。

【説明概要】

- ・ 県庁職員メタボマスター大作戦については、昨年からやっているが継続してやりたい。昨年参加していない方の積極的な参加をお願いしたい。
- ・ 健康診断は、職員には受ける義務、事業主には受けさせる義務があつて、本来なら 100%になつていなければならないが、95%を超えていない (H19) ような状況であり、もっと受診率を上げなければならないと考えている。
- ・ 一般健診後の保健指導については、高知県総合保険協会にアウトソーシングしているが、それに加えて特に継続的な支援が必要な人には職員厚生課で個別保健指導を行っている。この個別保健指導が必要な職員がどれくらいいるかというところ、血液検査の結果がある職員 3,981 人の中で BMI の数値が肥満と判定される 25 を超えている職員が 1,010 人おり、そのうち高血圧、高血糖、高脂血症の 3 つのうち 2 つ以上があてはまるメタボリックシンドロームに該当する職員は 561 人にもなる。
- ・ 平成 19 年度の長期病休者については、精神・行動障害の職員が 46 名ということで、約 5 割弱を占めている。平成 10 年度と比べて随分増えているが、長期病休者の数があまり変わっていないことから、診断書の中味を詳しく見てみるとメンタルヘルスの問題が増えているとはハッキリいえない。
- ・ メンタルヘルスの対策としては、専門相談員や職員厚生課の産業医、保健師が相談を受けているが、年々件数も増えている。気になるのは、恒常的な過重労働から、メタボリックシンドロームやメンタルヘルスの問題にも及ぶようなケース。所属長には、いつもその担当、その部署ばかりが忙しいということにならないよう、仕事の進め方等に注意を願いたい。

【知事】

- ・ 産業振興計画をつくっているということもあり、今年は例年に比べ大変であり、高知県政全体を見たときの大きなメリハリといったときに、今年は忙しい年になるのだろうと思う。部署長をはじめ職員の皆さんには大変苦勞をかけているが、産業医の方がおっしゃったような点や、職員の一人一人の健康に十分に気をつけ

ていただいて、仕事を安定的に効率よく行えるようなかたちで進めてもらいたい。

3 平成 19 年人口動態統計月報年計・高知県の概数について【健康福祉部】

配布資料により健康福祉部から概要説明があり、意見交換を行った。

【説明概要】

- ・ 出生数は、一昨年、第二ベビーブームの子供のまた子供ということで若干増えて 6,000 人台に復活していたが、昨年は約 5,700 人と大きく減少し、過去最低となった。
- ・ 死亡数は、9,071 人となり、一昨年より 144 人増加し、平成 17 年に次ぐ過去 2 番目の多さとなった。これは高齢化上位県の現実として受け止めなければならないが、反省する点は乳児死亡率・周産期死亡率が全国 1 位となったことで、これをどう分析していくか、またそれを対策につなげていくかということが課題となる。
- ・ 死亡要因は、癌、心疾患、脳血管疾患が上位 3 位であったが、これらの要因で約 6 割近い方が亡くなっている。やはり生活習慣病対策をきちんとやっていくことが健康長寿へとつながる。
- ・ 合計特殊出生率は、1.33 から 1.31 に下がり、過去 2 番目に低いものとなった。全国では 34 位となり全国平均(1.34)を下回った。
- ・ 今回の結果のポイントは 3 つで、一つは人口自然減が過去最大になったこと。平成 2 年に全国で初めて人口自然減県となったが、その後拡大を続けており、この辺りでどうしていくかこれからの人口問題全般における課題となってくると思う。
- ・ 二つ目は、特殊合計出生率が 27 年ぶりに全国平均を下回ったこと。34 歳以下の女性の出生数が減っていること、晩婚化、未婚率の高さなどが要因となるが、若者の流出を防ぐということからも、地域の雇用の確保を産業振興計画の中で県をあげて取り組まなければならないと思う。
- ・ 三つ目は、周産期と乳幼児の死亡が今年極端に増えている。一人亡くなることによって大きく変動する数字であるが異常である。これから全数検証していく予定だが、先天性奇形等が多いと聞く。気になるのは母親世代のたばこ、酒などの生活習慣である。

【主な意見】

死亡率は 11.6 と未だかつてない数字である。死亡の原因が高齢化を押し上げているのか、あるいはその他の要因が押し上げているのか。

- 分析はこれからだが、現実としては高齢化による死亡要因が一番多い。若者の死亡要因としては不慮の事故と自殺が多く、高知県の特徴でもある。労災の死亡事故なども結構多く、就労環境が原因だということもあろうかと思う。また、40～50 代男性の経済苦による自殺も非常に多い。